「何程垢が出たか解らん、洗ふても〳〵限が無い、風呂の湯が眞黑になつたで、垢い山から漆喰場を見れば」

「そら何を云ひなはるねン」

「ほんまに垢の山が出來たんや、頭髪を刈つて髭を剃つて貰ふたら氣が變つた樣で、ア、え、心持や」

「何も御座りませんが、今日は是れで御辛抱を」

「イヤ大きに御馳走さん、こんな美味ものは永い間食べた事が無い」

「今日は、マア御緩りお寢みやす」

と二階へ床を敷いて寢さしました、一日二日五日十日半月と家に置いて遊ばして御座りましたが、

「若旦那、一寸貴方にお話が御座りますので」

「德兵衞、解つてる、お前に云はれるまでに出ようと思ふて居たが、お前所で喰ひ倒して居たら濟まん、今日は出ようか、明日は立とうかと思ふて居る間に二十日餘り經つたんや」

「イ、エ、そんな事は決して御心配なされますな、私の家は御主家さんがあればこそ、煙を立てさして貰ふて居りますので、私の家も御主家も同じ事、假令半年が一年でも御遠慮遊ばす事は御座りまへん、私も此の間から考へて居りますね、先日御歸りになりました時に、今度は改心遊ばしたと思ふて居ります、今の所は兄御樣が世を取つて御座るから、頭の百も下げてお歸りになつたところが、貴方さんは矢ッ張り他家へ出ねばならぬお身躰、それより此方に程のよい養子の口が御座ります、怒つたらいきまへんで、世の諺にも云ふ通り、小糠三合有つたら養子に行くなと云ひますが、末弟に產れたら養子に行かんならん、妹に產れたら嫁に行かねばならんのが紋切形、別に養子が悲しい物でも、恐い物でも御座りません、一ッ御養子にお出で遊ばしたら如何で御座りますか、先方樣はお宅より身代もズット上で御座りますし、又小姑が有るではなし、誠に都合のよろしい家で、お母さんと娘さんと二人暮しで、お宅は上町で御座ります、河內屋勘兵衞さんと云ふて、其の勘兵衞さんがお死れになつて、母親と娘さんだけで御座ります、その娘さんは今年十八、今小町と二ッ名を取つて居られます位、あの近邊での評判の美人で御座ります、どうですお越になる氣は御座りまへんか……」

「フム、行こう〳〵、養子に行こう、私は決して贅澤は云はん、三度の御飯さへ食べさしてくれたら、着物なんど着やへん」

「着物を着んて、どう云ふ譯で」

「三度の御飯を食べさしてくれて、蒲團の中で寢さしてくれたら結構や」

「どんな家へ行つたかて、着物を着んと居れますかいな」

「俵か菰を被る」